

日本銀行  
帯広事務所長

田原 謙一郎



7月に十勝・帯広に赴任し、東京の自宅に妻と息子2人を残しての単身生活が始まった。8月に入り、今年中学生になったばかりの次男が父親に会いにきたいという。生まれて初めて1人で飛行機に乗ってきた12歳の少年をとちち帯広空港に迎えた。少年は空港玄関から駐車場に向かって歩き出して開口一番「空気がまっ！」。

車中では、どこまでも広がる空や広大な畑に感嘆の声を上げ、動画を撮りながら東京の母親に実況中継。そうかと思えばSNS（インターネット交流サイト）の同級生グループに写真とコメントをアップ。本人は鼻歌交じりだが、デジタルネイティブの情報拡散力を目の当たりにした。

1週間のうち父親が仕事の日ではなく、1人でステイホーム。晩ご飯も毎晩家で食べた。料理が得意でない父親の食事を毎度平らげていたのは、素材の力のなせる業だろう。母・兄とオンライン夕食会を開催すれば、十勝の食材のおいしさや東京に比べた朝晩の涼しさなどを得意げに語っている。休日は広々とした緑あ

緒にスーパーに行き、十勝の食材・製品を探しては買い物かごに入れるという。学校で十勝の話題を出せば、仲の良いクラスメートの親族が実は十勝在住ということが分かり、一緒に十勝に遊びに行く機会を探っている。このように、1週間の十勝暮らしがきっかけとなって、十勝を応援、貢献しようという「関

少なくない。それは、たとえ数日の滞在であっても（子どもであっても）感じる事ができる魅力なのではないか。一定期間の滞在を促す取り組みは、既に進められてきている。観光プラン、ワーケーション、サテライトオフィス、移住体験など、これに単身赴任者から家族や知人への呼び掛けもプラスして、何らかの形で十勝に滞在し、その魅力を体感した人が増えていくにつれ、十勝のことを思い、応援、貢献したいと思う人も増える。引き続き感染予防対策に留意しつつ、やがて好循環が目に見えてくることを期待したい。ライフスタイルや働き方が多様化する中で、地方志向の若者や子育て世代が増えていくとも言われている。SNSの積極的な活用など、若年層をターゲットにした情報発信をさらに進めていくことも、今後の有効な取り組みになると思う。

## 「とちちステイ」の効能

### かちまい 論壇

ふれる公園でのびのびと身体を動かす、帰りには地元の公衆浴場へ。いわゆるまちの銭湯がかけ流しの温泉というせいたくを味わった。ドライブをして山の中や海のそばの温泉にも行った。

こうして少年の「とちちステイ」が終わったのだが、話は続く。東京に戻った後、母親と一

係人口」が創出された...と言うと大げさだが、少なくとも十勝ファンが1人増えた。豊かな自然と生活空間に恵まれ、手ごろな価格で安全・安心な食材（そして温泉）を頂ける十勝では、地元の方々が当たり前と思っても、外から来た者には新鮮に映り、自分の生活の質が高まったと感じる機会が